

市川市議会では、年4回の各定例会で、会派の代表が会派独自の立場から、市長提出議案等その他市政全般について質問をする代表質問を行います。6・9・12月定例会の代表質問における各会派の質問時間は、原則3日間の総質問時間を、質問通告のあった会派の所属人数に応じて割り振って決定します。質問は総括質問者が登壇して行う他、補足質問者を立てることができます。ここでは、代表質問のうち、会派が指定した項目の主な内容を掲載しました。

代表質問

創生市川第1

加藤 武央
岩井 清郎
田中幸太郎
〔総括質問者〕

ビーイングの整備

問 子育て世帯のニーズとして、子ども達が放課後等に安心して過ごすことのできる、安全な場所の確保が挙げられる。本市では、そのニーズに応えるために「子どもの居場所づくり事業(ビーイング)」を実施しているが、妙典及び行徳地区では未設置の状況である。近年、同地区においては、新しいマンションや住宅の建設により子育て世代が増加しているため、ビーイング設置のニーズが特に高いと考える。そこで、同地区へのビーイングの新規設置について市の見解を問う。

答 ビーイングは、余裕教室等を主な活動場所としているが、妙典及び行徳地区では、近年、児童数が増加しているため、ビーイングに転用できる教室等の確保が極めて困難であり、早期の新規設置は厳しい状況である。しかし、放課後等の子どもの安心安全な居場所へのニーズが高まっていることや、同地区でその傾向が顕著であることは市も把握しており、何らかの対策を講じる必要を感じている。そこで、学校内に専用の教室を得られない場合でもビーイングの機能を備えた新たな方策を検討し、新規設置の体制整備を進める。



子どもの居場所「ビーイング」

無所属の会

長友 正徳
湯浅 止子
越川 雅史
増田 好秀
秋本のり子
〔総括質問者〕

クリーンセンター

問 市は、東京オリンピック・パラリンピック開催等による建設費の高騰により、クリーンセンターの建て替えを3年程度延期するとしていたが、3年程度とした根拠は何か。また、生ごみをバイオガス化した後に生じる発酵残渣を堆肥化できれば、本当の意味での循環型社会になると考えるが、堆肥化について市の考えを問う。

答 現クリーンセンターは定期事業者検査において、ボイラー設備等に劣化や損傷がないことが確認されていることに加え、操業期間の延長について建設プラントメーカーにヒアリングを行ったところ、適切な維持

管理と補修により3年程度は稼働可能との回答を得られたことから、建て替えの延長期間を3年程度とした。また、発酵残渣の堆肥化については、堆肥の供給先の確保が課題ではあるものの、生ごみの最終処分量の削減や循環型社会の更なる推進につながることから、今後、調査研究を行っていきたい。を企図する必要があるが、市としても、営巣環境の保全には配慮すべきと認識しており、営巣木との距離を保ち、樹木の伐採がないようルートを検討していく。

オオタカの営巣環境の保全

問 北国分1丁目の小塚山公園には平成26年頃から猛



オオタカ

清風会

松井 努
石原みさ子
竹内 清海
片岡きょうこ
青山 博一
〔総括質問者〕

防災・減災対策と地域特性

問 本市で大きな地震等が発生した場合、南部での水害や北部での崖崩れ等の発生が予想されるが、現在の減災マップでは、必ずしも詳細な地域特性まで把握するのは難しいのではないかと考える。そこで、地域特性を考慮した対策について、市はどう考えるか。また、本市では約6割の市民がマンション等の集合住宅で暮らしているが、これまでの防災あるいは避難マニュアルは主に戸建て住宅向けに作成されており、集合住宅には必ずしもそぐわないと考える。市の見解を問う。

答 今後、市民が各自で地域特性を理解し、オリジナルの防災マップに任せることができるよう、小学校



「BJ☆プロジェクト」メンバーによる講演の様子

女性視点での防災・減災

策のチラシを作成していく。

問 女性の視点を生かした防災・減災対策について、国は災害対策基本法の改正によりこれを推進しており、他市では、東日本大震災の被災経験がある女性の協力を得てイラストや写真を多く盛り込んだ防災ミニブックを発行している例もある。本市では、女性職員で構成する通称「BJ☆プロジェクト」が、子どもや高齢者にも分かりやすい防災ブックによる周知啓発の必要性を提言している。そこで、例えば同プロジェクトを引き継いだ「BJアドバンス」による冊子の作成等の施策について、市の考えを問う。

答 現在、市は「防災カル

区ごとに細分して災害特性や防災施設を記した「防災カルテ」を作成し、平成31年度の早い時期に市公式Webサイトに公開する。また、マンション等の中高層住宅のマニュアルについてはこれに特化した防災対策

「BJ☆プロジェクト」メンバーによる講演の様子

管理と補修により3年程度は稼働可能との回答を得られたことから、建て替えの延長期間を3年程度とした。また、発酵残渣の堆肥化については、堆肥の供給先の確保が課題ではあるものの、生ごみの最終処分量の削減や循環型社会の更なる推進につながることから、今後、調査研究を行っていきたい。

営巣環境の保全

問 北国分1丁目の小塚山公園には平成26年頃から猛

猛禽類のオオタカが営巣している。約49万人もの市民を擁する本市にとって、オオタカの営巣は自然と人間の調和・共生を象徴していると考えられる。現在、同公園では新たな遊歩道の整備計画が進められているが、オオタカの営巣環境の保全に対する市の認識について問う。

答 小塚山公園でのオオタカの営巣は外環道路の工事中に外環事業者により発見され、事業者は建設機械の高さの抑制や騒音の抑制、作業員の営巣林内への立入禁止等の対策を行い営巣環境の保全を図ってきた。遊歩道の整備は、同公園や、現在、整備を進めている「どうもぎ谷津に拡充する公園予定地」と堀之内貝塚公園との連続性や利便性の向上を企図する必要があるが、市としても、営巣環境の保全には配慮すべきと認識しており、営巣木との距離を保ち、樹木の伐採がないようルートを検討していく。